

国語【看護学部】

(2月9日)

開始時刻 午前 10 時 30 分
終了時刻 午前 11 時 30 分

※ 数学の問題は、本冊子の左開きのページにあります。

注意事項

- 1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子は 22 ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答题用紙の汚れなどがあつた場合には申し出てください。
3. 国語が数学のどちらか 1 科目を選択し、該当する解答题用紙を切り離して解答してください。2 科目とも解答した場合は、すべて無効となります。

数学 1～5 ページ
国語 1～17 ページ

- 4. 解答题用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。

① 受験番号欄

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名とフリガナを記入してください。

- 5. 解答は解答题用紙の解答欄にマークしてください。例えば、10 と表示のある問いに対して◎と解答する場合は、次の(例)のように解答番号 10 の解答欄の◎にマークしてください。

(例)



- 6. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいませんが、どのページも切り離してはいけません。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

◇M10(668—249)

一 次の文章を読んで、後の問一～九に答えなさい。

動物やヒトの仲間どうしであいだでコミュニケーションが成立したというのは、本当は何が起つてきているのかを、少し体系立てて考えてみることにしよう。実は、その過程で生じていることの性質によって、三通りぐらいの違った類型にタイプ分けできると考えられている。①は、いまわれわれが恐怖を抱いたとき、われわれの身体は直ちに、恐怖をひきおこした当の対象からの脱出を可能にする準備状態をくり出すよう作動する。②すなわち、ノルアドレナリンやコルチゾルといった一連の生理活性物質が、大量に血中に放出される。それらは、①血

糖値を上昇させ、②感染やショックに対する抵抗力を高め、③心収縮を強めて血圧を維持し、組織への血液供給を増進する。等々の多様な現象をひきおこして、火急事態に対する生体の適応反応を促す作用に重要な役目を果たす。その動物を外界から見れば、たとえば瞳孔の拡大がケンチョとなる。瞳孔が広がることは、その分生体に入力される視覚情報が増大することを意味する。③ある調査によると、アメリカの大リーグの野球選手のなかで、打者として高打率を残している者ほど、バッテリーボックスのなかでよく目を見つめているという。

瞳孔の拡大は当然、周囲にいる仲間知覚されることになる。④このとき、仲間の目にとまった自律反応のチョウコウと、当の動物の置かれている状況とを結びつけて認知することができたならば、瞳孔の開き具合から、彼が恐怖を抱いているという内部情報の読みとりが成功したことになる。⑤個体がみずからの生存のために一次的に適応した反応パターンは、その個体が好むと好まざるとにかかわらず、受け手によって信号として二次的に解読される。これは視覚に限らず、嗅覚や聴覚といった他の感覚系についても同様である。たとえば、心拍の増大は体温の上昇をうながし、その結果、発汗が盛んになるだろう。汗のなかには老廃物として特定の物質がふくまれているので、嗅覚感受性がある程度以上高めれば、個体の緊張度がおしはかれると違いない。また、興奮に伴って呼吸運動も激化する。気管からの激しい空気の流出が音声となって現われると、聴覚を通じての読みとりが行なわれることとなるのである。

次に表出行動の第二段階として、ある特定の生体反応や行動が、まさに仲間への情報の伝達のために特異的なパターンをとるよう進化してきた。この事例が多く存在する。たとえば、繁殖や採食のためオスがなわばり(テリトリー)を形成する鳥や哺乳動物では、普通そのなわばりの持ち主が定期的に派手なさえずりを行なったり、吠え声を出したりする。これらの音声は、テリトリー・ソング、あるいはテリトリー・コールと呼ばれる。テリトリー・ソング(コール)は、近傍の同種に聞かせることによつてのみ、発し手に利益をもたらすのだから、Y としての機能をもつておこなうことができる。

一 一

◇M10(668—248)

とはいうものの、ただこれだけでは、われわれが真の意味でコミュニケーションと考えているものとの間には、まだギャップがある。通常ヒトの行なうコミュニケーションでは当然、①表出の意味を受け手によつて、当を得て理解されなければならない。しかしことばによるコミュニケーションでは、それと同時に、②行動を行なう主体が、自らの表出の意図性を把握して、それを意図的に伝達のためにちりなくしてはならない。今まで述べた第二段階としての伝達行動は、情動あるいは主観的感覚状態が Z に反映された動きにすぎない。動物は往々にして、われわれの想像を超える高度の情報処理能力をもっており、たとえば興奮のあまり目が荒くなった結果思わずのどから出してしまうような、伝達を意図しないで出される声を耳にしたときですら、発声主体の内部状態にかかわる情報を読みこみ、次の振舞いを予測して、もっぱら自己にとつてつうのよい対処の仕方を行なわれたことにはならないのは明白である。

それゆえ、言語行動のルーツをヒト以外の動物に求めるとすれば、まずヒト以外の動物もまた意図的なコミュニケーションを行なうのかという考えを必要に迫られる。今までのところ、ある動物が意図してある種の身ぶりやしぐさを用い、仲間に伝達をくり出しているという事柄はまったく知られていない。同様に動物が、匂いの放出を随意的に行なうことを証明した研究もない。

(正高信男「0歳児がことばを獲得するとき」行動学からのアプローチによる、設問の関係上、本文を改めたところがある。)

一 2

◇M10(668—247)

問一 傍線部A～Iと同じ漢字を含むものを、次の各群の◎～⑤から、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、Aが

- 1. ◎ ケンチョ
a ケンコウ診療をうける
b ケンビキョウで観察する
c ボウケンの旅に出る
d 政治のジツケンを握る
e シュトケン住宅事情
イ チョウコウ
a 大学でコウギを受ける
b ノウコウ民族
c 業のノウを確かめる
d 労働コウショウの席
e 手紙にコウのあいさつ付ける

◇M10(668—246)

- ウ クワタてる
a ボウリヤクをめぐるせる
b ケイカク的に行動する
c キキョウに就職する
d 国会でシキキする
e シモン機関に意見を求める

一 3

問二 本文からは、非常事態に即して、まず注意を十分にはうために周囲をよく見るといふ行動がきわめて肝要であるといふことは、いまでもない。といふ一文が抜き出されている。どこにもとらよいか、最も適切なものを、次の◎～⑤から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 4。

- a ①
b ②
c ③
d ④
e ⑤

問三 文章中の空欄 W に入る言葉として最も適切なものを、次の a) から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

- a 感覚的
- b 普遍的
- c 生物的
- d 限定的
- e 特種的

◇M10(668—243)

問四 文章中の空欄部 X には、左の①～⑥の各文が入る。正しい順に並べるとすれば、どれが最も適切か。次の a) から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

- ① 音は当然隣りのなわばりのオスの耳に達する。
- ② そして隣のオスとの接触を回避しようと努める。
- ③ 結局、音の発し手のなわばりが確保される確率が高くなる。
- ④ オスがなわばりを形成して、隣接したなわばりの内の他のオスの存在が認められると、それが刺激となつてこの発声行動は機械的に起きる。
- ⑤ しかし、大きく声をたてるという運動は、それ自体第一次的に生体の生存に貢献しているとは考えにくい。
- ⑥ 彼は、よほどのリスクを冒さない限り、自分のなわばりをこれ以上拡張することは大変だと分かる。

- a ① ↓ ④ ↓ ⑥ ↓ ② ↓ ⑤ ↓ ③
- b ① ↓ ② ↓ ⑥ ↓ ③ ↓ ④ ↓ ⑤
- c ① ↓ ⑤ ↓ ④ ↓ ② ↓ ③ ↓ ⑥
- d ④ ↓ ⑤ ↓ ① ↓ ⑥ ↓ ② ↓ ③
- e ④ ↓ ① ↓ ⑥ ↓ ② ↓ ③ ↓ ⑤

— 4 —

問五 文章中の空欄 Y に入る言葉として最も適切なものを、次の a) から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

- a 信号
- b 確認
- c 反応
- d 攻撃
- e 言語

◇M10(668—244)

問六 傍線部 A でテリトリー・ソングと「われわれが『真の意味で』コミュニケーションと考えているもの」との間には、まだギャップがあると筆者が考えているのはなぜか。その理由として、最も適切なものを、次の a) から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

- a テリトリー・ソングは、なわばりを形成する鳥や哺乳動物の間だけに見られるものであり、人間同士のコミュニケーションの中では使用されないから。
- b テリトリー・ソングは、仲間への伝達という機能のために特異的なパターンをとるよう進化したものであり、一般的なコミュニケーションの形態とは異なるものであるから。
- c テリトリー・ソングは、表出された意味が受け手によって判断されるため、コミュニケーションが十分に成立するとは限らないから。
- d コミュニケーションは、主体が、自らの表出の意味がもっている表現性を把握して、それを意図的に伝達するために用いなければならないものであるから。
- e コミュニケーションの成立には、表出の発し手とその受け手の双方が存在することが不可欠の条件であるが、テリトリー・ソングでは、表出が本当に受け手に届いているのが判然としないから。

— 5 —

問七 傍線部 B 当て得ては、文中ではどのような意味で用いられているか。最も適切なものを、次の a) から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

- a 当選したものとして
- b 当然のものとして
- c 確実なものとして
- d 完全なものとして
- e 妥当なものとして

◇M10(668—243)

問八 文章中の空欄 Z に入る言葉として最も適切なものを、次の a) から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

- a 直接的
- b 意図的
- c 生物的
- d 特種的
- e 間接的

— 6 —

問九 傍線部 C 「随意に否定の意味をたせるには、次のどれをつければよいか。最も適切なものを、次の a) から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

- a 未
- b 無
- c 非
- d 反
- e 不

二 次の文章を読んで、後の問一、問八に答えなさい。

教える／学ぶから、伝える／応えるという関係に、もういちど教育の場を戻す必要があるのではないかとおもふ。なぜなら、すでに述べたように、教育とは、ある世代が痛い思いもするなかでやむにやまれず編みだしその知恵を次の世代に伝えるものだからだ。だれにでも通用するかどうかはわからないが、わたしたちの世代はその時代のなかでこのように生きた。そのなかからこれだけは守らなければならないとおもふようになった。そのような経験を次の世代に伝えるものだからだ。そこにやむにやまれぬ伝えへの意志が籠もっていないければ、教育は成り立たないはずだからだ。

その「伝え」を聴く側にしても、それが本気の言葉でありきたりの言葉かはずく見分けがつく。だから、そういう伝える側と聴く側のあいだにも信頼というものが交換されていなければ、「まなび」というものは成り立ちようがない。

ところが、学校という現場でやりとりされている言葉は、往々にして、信頼を育むというより信頼を壊すようにはたらくことが多い。いや、そういう構造になっている。学校で使われるのは、いつてみれば「相手手を壊す言語」だからである。

ふつう、訊ねるというのは、じぶんが知らないことを訊ねるものだ。知らない者が知っている者に訊ねるものだ。知らないから教えて欲しいと、何かを訊く。そこには知りたい、学びたい、教えてほしいという、他者への切なる要求や「コンガン」がある。教えるほうにも、何かをどうしても伝えておきたいという気持ちがある。【一】

ところが学校では、質問は相手を知っているかどうか験すための言葉になる。教師が生徒に、教えたことをちゃんと覚えてるかどうかが質問する。日常の質問とちよど逆のかたちになっているわけだ。たとえば「天化の改新は何年？」「オランダの首都はどこ？」というふうに。人を験すというのは、こどもへの信頼をいったん括弧に入れておくといい。だから、験された生徒のほうは、正解だと当たったと驚喜する。ここには、訊くという側がある。両者のあいだには、何かを知りたい、伝えたいという、やみかたい気持ちがない。伝える／応えるという、人と人との関係が、験す／当てるという「信頼をいったん停止した関係にすり替わっている。いつてみれば、知識というものが、ある鍵をもった者だけが開くことのできる所有物のように考えられ、そして教師がそれを管理する守衛や察知のような役をしている。験す言葉が教室の基本にあるというのは怖いこと。いくらかえすが、験すことは相手の信頼をいったん停止することである。訊かれたほうもそれを肌で感じる。この信頼の一旦停止は、よほどのことがないかぎりどどんと膨らんでいって、教室というところが信頼のすっぽ抜けた場となる。教師が「伝える／応える」という関係におもっているものが、生徒には「験す／当てる」という、不信を前提とした関係として受け止められるからである。【二】

X

◇M10(668—242)

ここで、「教えて」というコンガンに満たされていない問いを封印した、そんな教室を想像してみる。「めだかの学校ではないが、だれが生徒か先生かわからないような空間はきつと楽しいだろうとおもう。それだけでも、おとながほんとうに伝えたいこと、子どもがほんとうに訴えたいことが、いまよりはうんと行き交うだろうとおもう。」⑬

ここでいう「学校的なもの」は、学校だけでなく、いまの社会全体に浸透している。学校を卒業したあとも試験がある。入社試験のあとも、退職するまで試験はつづく。昇進試験、資格試験と、「験」ははてしなくつづく。⑭

どこに行っても試験で資格や能力を問われる社会、「これができるといえる条件つきです」が決まる社会である。教育の長期化は、社会システムが高度に複雑化して、そのなかで行動する能力の育成にも問がかかるようになった社会の特徴であるが、何をやるにしても資格や条件が問われる社会というのは、人びとの心いやでも蝕んでゆく。ちやんと宿題したら、遊園地に連れて行ってあげますからね。こうした声を恒常的にかけられているうち、じぶんの存在は人に認められるか認められないかで、あたりなかつたりする、そういうものなのだ、という感情をつのらせてゆく。そして、条件を満たさなければ即「不要」の烙印が押される。「きみの存在はここでは必要ない」と。⑮

こういう経験を子どもはくわえてゆくうち、じぶんが「いる」に値するものであるかどうかを、ほとんどボクソライヴな答えがないままに、恒常的にじぶんに向けてようになる。それとはつきり意識しないまま、子どもたちはじぶんの「死」にふれつつけることになる。

子どもはだから、こうした鬱屈した気分を、何を指しているもじぶんの存在をそのままでは肯定してもらえないような関係を求めている。何もできなくてもじぶんの存在を認められたいという愛情をひどくカワいている。「ながつていたい」「ぬくもりがほしい」という気持ちもそこから出てくる。

が、これはほんとうはいまの社会のだけれども心の底で疼かせていることからはなれないだろうか。こうした社会にいま回復しなければならぬのは、まずはいたがたいの存在を肯定する、そういう「信頼」の関係ではないだろうか。

(鷲田清「おとなの背中」による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)

◇M10(668-241)

問四 傍線部B(たとえば)として挙げられている質問と同様の質問ではないものを、次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は [ 16 ]。

- a 水の化学式はなに?
- b 6かける8はいくら?
- c 大きくなったらどんなお仕事がしたい?
- d 「ソクラテスの弁明」を書いたひとはだれ?
- e あしたの遠足に持ってきていけないものは?

◇M10(668-239)

問五 傍線部C(験す)とは相手への信頼をいつたん停止することであるとあるが、筆者はなぜそう言えると考えているのか、最も適切なものを、次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は [ 17 ]。

- a 験すというのは、相手が理解したかどうか疑っていることを前提とした態度だから。
- b 験すことによつて、相手に何かを伝えたいという気持ちを押しつけることになるから。
- c 験す言葉が教室という場にあることは、生徒を管理する教育を想定したことから。
- d 験す形式の間は、教師と生徒が共存している教室という場でもしかり立たないものだから。
- e 訊かれた側から見ると、信頼関係がなくなった言葉のやりとりになつてしまふから。

— 8 —

問六 傍線部D(だれが生徒か先生かわからないような空間はきつと楽しいだろうとおもつと考えるのはなぜか、最も適切なものを、次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は [ 18 ]。

- a 生徒と先生が、対等な立場に立つて互いに質問しあふような場となるから。
- b 教えてほしいという心からの思いが満ちあふれた場所で言葉が行き交うから。
- c 教える側と教えられる側が、たがいの立場を十分に尊重して、関係が築けるから。
- d 「伝える／応える」という信頼関係に満ちた、心なごむ空間を創出できるから。
- e それぞれが本音で語り合う場が生まれて、嘘のない社会が実現するから。

問七 傍線部E(じぶんの「死」とは、どのようなことを指すか、最も適切なものを、次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は [ 19 ]。

- a 何をすることも資格や条件が問題とされるということ。
- b 条件を満たさない場合は、じぶんの存在が認められないということ。
- c じぶんが「いる」ことに確信が持てないまま、生活が続くということ。
- d 資格や能力を問われることで、いやおうなしにしだいに心が蝕まれていくこと。
- e ポジティブな評価を得ることなく、くりかえしてじぶんが「いる」かどうかを考えること。

◇M10(668-238)

問一 傍線部A、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤から、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが [ 12 ]、イが [ 13 ]。

ア コンガン

- a 公私をゴトウする
- b 犯人がコンセキを残す
- c コンセツト車な指導
- d 突然の申し出にコンワクする
- e ツウゴの失敗

イ カワいて

- a 大臣をコウテツする
- b 新聞に作品がケイサイされた
- c 判断をリユウホする
- d ころから平和をカフボウする
- e 砂漠はともカンソウしている

◇M10(668-240)

問二 本文を前半と後半に分けるとすると、前半の最後は①～⑤のどこか、次の①～⑤から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は [ 14 ]。

- a [ 1 ]
- b [ 2 ]
- c [ 3 ]
- d [ 4 ]
- e [ 5 ]

— 9 —

問三 傍線部A(教育は成り立たない)とあるが、教育が成り立つ条件として筆者が述べていることとして最も適切なものを、次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は [ 15 ]。

- a 教える／学ぶという関係から、互いに学びあふ関係に変化してきた場合
- b ささまざまな経験をする中で、自分たちの世代が編み出した知恵が生まれた場合
- c 教育者として、強い情熱を持って教壇に立つことができた場合
- d どうしても守らなければならないできごとを強く体験した場合
- e ある世代がやつとの手にした知恵を、ぜひ伝えたいと強く思う場合

問八 文章中の空欄 [ X ] に入れる表現として最も適切なものを、次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は [ 20 ]。

- a 生徒から教師にたいして
- b 教える側が教えられる側に
- c 験す立場から験される立場に
- d 知っている者が知らない者に
- e 知りたいほうが伝えたいほうに

— 11 —

三 次の記事を読んで、後の問一～八に答えなさい。

汽車を降りたのはふたりだけだった。

シャツの襟が汗で汚れるのを防ぐためだろう、首から手拭を垂らした年配の駅員が柱にもたれてカイサツチの番をしていた。その駅員の手は押すつづきのまじりに切符を一枚渡し、待合室をほんの四、五歩で横切つては外へ出た。すぐ目の前を、荷車を引いた老馬が尻で蠅を追いながら通り過ぎ、馬糞のまじった土埃と汗で湿った革馬具のすえた匂いを置いていった。土埃と革馬具のすえた匂いを深々と吸い込んでみると、弟が追いついてきて横に並んだ。ぼくが一人でさっさとカイサツチを通り抜けたことが、自分が置いてきぼりにされたことが不満なだろう。

「思い切り息を吐いてごらんよ」

弟はぼくは言った。

「空気が馬くさいだろう。これが僕らの生まれたところの匂いなんだ」

弟はポストンバッグを地面に下ろし、顔を上げて深く息を吸い込んだ。

「正さだ、この匂いを覚えておるだろう？」

B 「ぜんぜん」

孤児院のカナダ人修道士がよくやるように弟は肩をすくめてみせた。

「スつとスつとこのない田舎の匂いじゃないか」

弟がこの町を出たときはまだ小さかった。この匂いが記憶にないのは当然かもしれない。でもぼくにはこの馬の匂いと生まれ故郷の町とを切り離して考えることは出来なかった。町は米作りで成り立っていた。冬、雪に覆われた田に堆肥を運ぶのも、春、雪の下から現れた田の黒土を耕すのも、夏、重い鉄の爪を引いて田の草を除くのも、そして秋、稲束を納屋まで運ぶのも、みんな馬の仕事だった。ぼくがここを離れたのは三年前の春だったが、そのとき町にあった自動車は十数台の乗合バスと、それとほぼ同数のトラックだけで、運搬の仕事もそのほとんどを馬たちが引き受けていた。とくに冬は深い雪のために自動車はもの役に立たず、そのときの町はそり引いた馬たちの天下になった。そんなわけで馬糞と革馬具の匂いはこの町そのものの匂いだ。ぼくはもういちど馬くさい空気を胸いっぱい吸い込んだ。

ぼくと弟を乗せてきた汽車が背後で発車の汽笛を鳴らした。駅前の桜並木で鳴っていた鐘たちが汽笛に驚いて少しの間黙り込んだ。汽笛にうながされて、ぼくは桜並木の下の日陰を拾いながら歩き始めた。真夏の午後の炎暑を避けて桜並木の通りには人影もなかった。四周を山で囲まれているために暑気の抜ける隙間がなく、北国なのにこの町の夏は妙に蒸し暑いのである。

「待ってよう」

ぼくの足を追いつけず、はるか後ろで弟が音を立てた。細ひもで縛ったトラックを地面に置き、その上に腰を下ろしてぼくは弟が追いつくのを待った。トラックは死んだ父親が学生時代に使っていたという年代物で、角々に打った補強の金具は、一つ残らずとれており、錠もはかばかになっていて、細ひもは錠の代わりだった。

桜並木はあと十数メートルで尽きようとしていた。そして尽きるところで旧街道とぶつかる。旧街道を右に曲がって三町ほど行くともう祖母の家のはずだ。ぼくと弟は夏休の後半をその祖母の許で過ごすために、仙台の孤児院から故郷の町へ着いたことだった。

ぼくが高校一年、弟が小学四年のときのことである。

X 「」

追いついてきた弟に調子を合わせるように声をかけながらぼくはまた歩き出した。弟は両手で持ったポストンバッグの重さと釣り合をとるために体を後ろに反らせたまじりに来た。旧街道はかなり大きな川に流れて続いているはずだ。川からの風はきつと涼しいだろう。川風が荷物の重さを少しは忘れさせてくれるに違いない。

「」

Y 「」

額の汗を手の甲で払って、ぼくは弟にまた声をかけた。ぼくが祖母の許へ来ることを思いついたのは、夏休みが始まって十日ばかり経ってからだった。孤児院の夏休みはひどい重労働だったのでどこかへ逃げ出す手はないかと必死で思案をめぐらせ、祖母のことを思い出したというわけである。

夏休み第一日は市の青年商工会議所ユウシンの招待による海水浴、第二日は市の福祉団体連合会の主催する「よい子の夏祭り」への参加……というようないくつかの行事と心づくしで挟みこまれてきた。

第九日の二日母子の会から帰ったぼくは、孤児院の事務室の掲示板に、

「第十日、市内高校演劇部共催・夏の人形劇大会、第十一日、市営プール主催・市内養護施設対抗水泳大会、第十二日、地元有力紙主催・親のない子と子のない親たちの七夕祭り……」

と書かれてあるのを読み、このままでは夏休みの終わらぬうちに倒れてしまうのではないかとおびえ、祖母にあてて手紙をしたためた。

◇M10(668—237)

— 12 —

◇M10(668—236)

— 13 —

「故郷をあとにしてから早いもので三年経ちました。驚かないでください。ぼくと弟は今孤児院にいます」 たしかこんな書き出しだった。これに続けてぼくはたぶん次のように書いたはずだ。「ぼくが孤児院に入ったのは、母の病気がうまくいかないので、母は、男と同じように女にも意地というものがある、たとえどんなに困っても、まだどんなに辛くても、ぼくは泣きついてくれない、手紙を出すのもいけないよ、と言っています。でも、ぼくらはつくつと孤児院にいるのに疲れました。かといって母のところへは帰れません。母は旅館の住み込みの女中さんをしているのです。ぼくは、突然のお願いですみませんが、ぼくらをばつちのころへ置いてくれないか。」

Z 「と書かなかったのは、ひょっとしたら祖母がぼくらを夏休みの間だけでなくずっと孤児院から引き取ってくれるかもしれないという期待があったからだ。」

（井上ひさし『あくる朝の鐘』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

◇M10(668—235)

— 14 —

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～④から、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが 、イが 。

- |   |             |   |            |
|---|-------------|---|------------|
| ア | カイサツチ       | イ | ユウシ        |
| a | 組織をサツシする    | a | シヨシを貫徹する   |
| b | 公共工事のニューサツ  | b | 解散はヒツシだ    |
| c | 反対意見をモクサツする | c | ジヨウシの評可を得る |
| d | 工場をサツシする    | d | あの人はサツシだ   |
| e | マサツが起きる     | e | チホウシに載る    |

問二 傍線部Aその駅員の手を押すようにして切符を二枚渡し、待合室をほんの四、五歩で横切つてぼくは外へ出た。「ぼく」の心情を説明したものと、最も適切なものを次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 。

- a 駅員の仕事に対する姿勢が許せなかったため、急いで外に出た。
  - b 蒸し暑さから早く解放されたかったため、少しでも乗をしようとした。
  - c 祖母の家に早く行きたい一心で、急いで外へ出た。
  - d 弟と一緒に駅を出てはあやしまれるので、一人で急いで外へ出た。
- 故郷の町に帰ってきたことを早く実感したかったので、急いで外へ出た。

問三 傍線部B「ぜんぜん」孤児院のカナダ人修道士がよくやるように弟は肩をすくめてみせた。「べつにどうつとこのない田舎の匂いじゃないか」における弟の心情を「ぼく」はどう読み取ったと考えられるか。適切でないものを次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 。

- a こんな田舎の町に戻ってきてしまったことを後悔しているのだな。
  - b 自分がさっさと外に出たことに腹を立てているのだな。
  - c 故郷の町なのに懐かしさを感じていないのだな。
  - d なるべく感情を表に出さないように振る舞うことで、不満をあらわそうとしているのだな。
- 故郷の町に帰りたいわけではないのだな。

◇M10(668—234)

— 15 —

問四 傍線部C「音を上げる」の意味として、最も適切な言葉を、次の①～⑤から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

25。

- ① よく聞こえるように大声で言う
- ② 興奮して大声で言う
- ③ 不平不満を言う
- ④ 苦しみのあまり声が上ずる
- ⑤ 苦しさに耐えられず声を立てる

問五 文章中の空欄 X、Y に入る言葉の組み合わせとして、最も適切なものを次の①～⑤から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

26。

- ① X…もう少し、もうひと息。 Y…もう少しと行くと楽になるよ。
- ② X…もう少し、もうひと息。 Y…これからは頑張らなところだよ。
- ③ X…まだまだだ、これからだ。 Y…これからは頑張らなところだよ。
- ④ X…疲れたかい、僕もだよ。 Y…もう少しと行くと楽になるよ。
- ⑤ X…まだまだだ、これからだ。 Y…よく頑張ったね。

問六 傍線部D「したためた」を書いたのかわりに使った「ばく」の心情の解釈との比較について、最も適切な説明を、次の①～⑤から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

27。

- ① 「したためた」にすると、自分たちの惨めな境遇について、祖母によく理解してもらおうとする気持ちがより感じられる。
- ② 「したためた」にすると、手紙としての形式を守り、手紙らしい手紙になるように書こうとした気持ちがより感じられる。
- ③ 「したためた」にすると、祖母が自分たちを受け入れてくれるよう、表現の仕方を工夫して書こうとした気持ちがより感じられる。
- ④ 「したためた」にすると、自分たちの祖母を思う気持ちが伝わるよう、心を込めて書こうとした気持ちがより感じられる。
- ⑤ 「したためた」にすると、手紙を書くことに慣れないように書こうとした気持ちがより感じられる。

問七 文章中の空欄 Z に入る言葉として、最も適切なものを次の①～⑤から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

28。

- ① 善意と心づくしに疲れました
- ② 母には内緒でお願いします
- ③ 母の考えも聞いてみてください
- ④ 夏休みの間だけでもいいです
- ⑤ ずっつと置いてください

問八 この文章の特徴として、最も適切なものを次の①～⑤から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

29。

- ① 漢語が多く使われや堅い文章ではあるが、ところどころに会話文が入っているので、読みやすい文章となっている。
- ② 全体が回想ではあるが、詳しい説明を織り交ぜながら臨場感のあるものになっている。
- ③ 人物の内面の描写を織り交せることで、兄弟の置かれた状況を現在進行している形で書いている。
- ④ 余計な説明は省き、シンプルに描くことで、読みやすい文章にしようとしている。
- ⑤ 会話文が多く、問の地の文を省いても意味が通じるほど分かりやすいものになっている。